

注目し、今回われわれは、肝機能指標としてこの二つの囲む曲線の面積を求め検討した。この面積を比較するために、GSA投与後30分の肝集積カウントを各症例ごとに100としタイムアクティビティカーブを作製し15分までの面積S15を求めてLHL15と比較検討した。

S15とLHL15はよい相関を示し、またその他肝機能とS15は、LHL15よりよい相関を示した。

22. 膵疾患における Ga-SPECT の意義

青野 祥司 最上 博 重沢 俊郎
越智 誉司 篠原 功 片岡 正明
(国立病院四国がんセ・放)

膵腫瘍性病変13例(膵管癌9例、腫瘍形成性膵炎3例、悪性リンパ腫1例)を対象に、Ga-SPECTを実施し、病変への異常集積の有無について検討した。その結果、膵管癌0/9、腫瘍形成性膵炎2/3、悪性リンパ腫1/1に病変に一致した異常集積を認めた。膵癌と腫瘍形成性膵炎は、臨床上および画像上鑑別困難な場合が多い。今回の検討にて膵癌の陽性率は低く、一方腫瘍形成性膵炎の陽性率が比較的高かったことは、他の画像診断に加えて、Ga-SPECTを実施することにより、これらの病変の鑑別に役立てうる可能性が示唆された。

23. 腰椎骨 SPECT の意義(基礎的検討)

吉村 尚子 野田 能宏 福本 光孝
赤木 直樹 吉田 祥二 (高知医大・放)

骨シンチグラフィは骨病変の検索に有用であるが、Planar像では、微小な病変や、良悪性の判定に苦慮することがある。われわれは腰椎標本を^{99m}Tc-MDP、^{99m}TcO₄⁻370MBqに1時間浸し、東芝 GCA 9300 A/HGにて、SPECT像を作成した。椎体へのRI uptakeは、^{99m}Tc-MDPで浸した方が多く、^{99m}Tc-MDPの集積機序がハイドロキシアバタイトに関与しているものと考えられる。SPECT像はPlanar像で描出されない微小な病変も描出でき、解剖学的に病変部位を特定できる。また集積パターンから良悪性の鑑別が可能になると思われた。

今後症例を重ね、CT、MRIと対比させながら検討を続けていきたい。

24. DXA を用いた全身、腰椎正・側面の骨塩量測定の有用性

八木 大 棚田 修二 高橋志津江
菅原 敬文 安原 美文 中村 誠治
木村 良子 濱本 研 (愛媛大・放)

133人の女性に対し DCS-3000を用いて全身、腰椎正・側面の骨塩量測定を行った。側面測定により画像(骨梁)、椎体部(腰椎前方成分)、椎体中央(海面骨成分)の情報が得られた。全身骨塩量をBMIで除することにより骨塩量の期待値からの乖離を示す可能性があると思われた。今回の検討では腰椎側面、全身骨の再現性に解決すべき点があると思われた。従来の日本人女性の骨塩量標準曲線では最大骨量からの急峻な減少が見られ、体格差を無視したためであるとも考えられ、今後体格別の骨塩量を設定する必要があると考えられた。

25. Radicular AVM の1例

内迫 博路 西垣内一哉 菅 一能
久米 典彦 岸本 佳子 (山口大・放)
久我 貴之 江里 健輔 (同・一外)

骨シンチで特徴的所見を呈し、さらにAVMに対する塞栓術後に肺塞栓および梗塞を発症し肺血流シンチを施行したradicular AVMの1例を経験したので報告する。

症例は47歳女性で両下肢知覚運動障害を主訴に山口大学第一外科入院。入院時の骨シンチで胸椎の限局性欠損像を認めCT、血管造影でAVMに一致する所見であった。骨シンチ上 defectを示す疾患の一つとして留意する必要があると思われた。

また永久塞栓物質による塞栓術後に肺塞栓を発症したが肺血流シンチによる経過観察で血流の改善を觀察し得た。永久塞栓物質による塞栓症でも肺血流が改善される予備能を有すると思われ興味ある所見であった。